



ウィル

WHILLカルテ Profile No.10



自立支援のために電動車椅子を活用し、PT・OTの目標達成につながったケース



USER INFO

K様

男性 / 50代

要介護2

身体障害者手帳1級

WHILL Model CK2、
杖を介護保険でレンタル利用

脳出血
右半身麻痺

現在の体の状態

立上り	自身で可能
歩行	杖を使って
移動	自宅内:歩行 外出時:ウィル
移乗	自力で可能

ご自身について

もともと美容師として活躍し、全国大会での入賞歴を持つ。抽象画を描くことを趣味としており、作品は、妻と二人で営む美容室の看板にもあしらわれている。脳出血を発症後、回復期リハビリテーション病棟を経て発症5か月後に自宅復帰。以降、訪問リハビリテーション（訪問リハ）を週3回、通所

介護事業所（デイサービス）を週3回利用。自宅復帰から約2年後にWHILL（ウィル）の利用を開始し、行動範囲の拡大とともに自立度が向上。現在、訪問リハではST（言語聴覚療法）のみを継続しながら、抽象画の創作活動に意欲的に取り組んでいる。

経過と介入

ウィル利用前の課題（～退院後2年）

退院後約1年で、着替えや入浴など自宅内でのADLは改善した。一方、外出するイメージが持てず、前向きな目標を見失ってしまい、提案された身体機能訓練をこなすのみという受動的な状態が続いていた。



興味関心チェックシートを通じて、「車を運転したい」という思いを確認。身体機能を評価し、実現可能な手段として電動車椅子を提案。ケアマネジャーや福祉用具貸与事業者とも連携し、ウィルの利用を開始した。



興味関心チェックシートはこちらからダウンロードできます。

ウィル利用後の変化

当初は、自宅周辺での操作練習や乗降動作練習から開始。利用開始約6か月後には1日1時間以上の外出が習慣化した。外出機会の増加とともに、自ら新たな目標を見出し、デイサービスでの歩行訓練などにも意欲的に取り組むようになった。



現在、訪問リハではSTのみを継続。ウィルに乗ってデイサービスへ自立して往復通所している。外出習慣が定着したことで身体活動量も増加したことなどから、ウィル利用開始から約6か月後には、要介護3から要介護2へと要介護度が改善した。



要介護度が改善

担当OT様の評価、経験談

K様は退院直後から「車の運転を再開したい」という思いが強くありました。しかし、高次脳機能障害の影響もあり、実際の運転再開には高いハードルがある状況でした。そのため当初は自宅内歩行など、PT・OT視点で設定した身体機能中心の目標を据えていました。

電動車椅子の利用は、自宅復帰から2年後、K様が目標を見失いかけていた中で、改めて興味関心チェックシートを元に会話した際に、唯一明確に伝えてくださった希望を基に設定した目標でした。「外に出たい」という強い意思があったからこそ、今回の改善につなが

ったのだと思います。

自宅復帰から2年が経過してからの導入となってしまい、「もっと早い段階で提案できていれば」という後悔もあります。K様のように「車の運転」を望みながらも、お身体の状況から実現が難しい方は少なくありません。そうした方に対しても、外出意欲を叶える一つの選択肢として、電動車椅子があることを、PT・OTやケア従事者の方々に知ってほしいと思います。

身体機能変化の定量データ

ADL・身体機能	利用開始時	1年後	2年後	2年半後
Barthel Index	70/100点	90/100点	90/100点	90/100点
CS-30	3回	4回	10回	8回
5m歩行	非実施	19秒	11.5秒	9.4秒
TUG	51.5秒	38秒	24.4秒	20.4秒
握力(右/左)	0kg/30kg	1kg/30kg	2kg/37kg	2kg/41kg
LSA(Life Space Assessment)	24/120点	25/120点	28/120点	50/120点

ウィル利用後、LSAの数値は顕著に改善した。

百貨店で開かれている絵画展への外出や、1人でバスを乗り継ぎ、約7km先で開催された講演会への参加など、自宅中心の生活から行動範囲が大幅に広がり、社会参加の機会も増加した。

ウィル導入に向けた関係者間での連携・取り組み:担当OT様談

退院から2年が経過しても生活動作や意欲面に大きな変化が見られず、ケアマネジャーやご家族の間では半日型デイサービスから一日型デイケアへの変更も検討していました。電動車椅子が検討に上がった際、利用によって介護保険の利用点数が高くなり、デイケアを利用できなくなるほか、ご家族からは「電動車椅子を使うことで歩かなくなるのではないか」といった不安の声がありました。

そこで、デイサービスの利用頻度は変えず、訪問リハの中で玄関ド

アの開閉動作や屋外への出入り、電動車椅子の乗り降り動作などを訓練項目として設定し、外出に向けた、かつ、リハの総量は変わらないプランを作成しました。また、K様と相談し「自宅内では歩行する」「ウィルの利用は6か月間まで」を約束事項として共有。担当者会議にて説明し、ご家族やケアマネジャーにも納得していただき、福祉用具事業者とも連携しウィルを導入。期限としていた6か月後、関係者で振り返りを行い、継続利用の判断をしました。



K様より

ウィルの利用前は将来について考えられず、リハビリにも身が入りませんでした。ウィルで外出できるようになったことで、それまで強くこだわっていた美容師への復帰に区切りをつけ、「今の自分にできる新たな目標を見つけよう」と前向きに考えられるようになりました。現在は自分で描いた絵画作品をSNSで発信しながら、画家として「売れる作品を描くこと」を目標に取り組んでいます。

日常生活でのウィルの使い方

自宅周辺は道幅が狭く、また自宅マンションの共用部に保管する必要があることから、コンパクトな椅子型モデルを採用。普段は玄関ドア脇に保管し、外出時にそのまま乗車して利用している。



ウィル モデル シー ツー

WHILL Model C2



近距離モビリティ 免許不要、歩道での走行可能

介護保険制度でレンタルの場合 約2,700円/月

メーカー希望小売価格 487,000円 (送料調整費別)

補装具費支給制度で購入の場合 0円~10万円(目安)

※制度の利用には条件があり、自治体への申請が必要です。詳しくはお問合せください。

スペック詳細

走行距離	20km <small>※路面状況などにより変化</small>
最高速度	6km/h
段差乗越	5cm
登坂力	10度
最小回転半径	760mm
サイズ (幅×長さ×高さ)	554×985×745-945mm
重さ	約52kg
充電時間	5時間
最大荷重	115kg

他ユーザー様事例や専門家の声、製品について詳しくご紹介

医療・介護従事者の皆様専用ページ



ウィル
WHILL株式会社  0120-696-527

平日9:00~18:00
※通話料無料